元美術学校再生

床にペンキ跡、版画機が商品棚

ものづくり拠点

左京

京都市左京区にある元美術学校の校舎が昨年秋にリノベーション（改修）され、アトリエやショップなどを集めた拠点「ｔｈｅ　ＳＩＴＥ」として再出発した。２月には全15室が埋まり、本格稼働する予定で、運営する不動産会社は「ものづくりに関わる人たちの交流の場になれば」と期待している。

㊤オープン準備を進めるカフェ「旅の音」。床には美術学校時代のペンキの跡も残る㊦版画のプレス機を商品棚に活用する古道具店「まてりあほるま」

校舎は3棟あり、2009年に閉校した京都インターアクト美術学校が教室として使っていた。現在は同校を吸収した京都精華大（左京区）が所有しているが、未利用だったため、不動産会社「フラットエージェンシー」（北区）が改修した上でアトリエや事務所、店舗として貸し出すことになった。

靴製造や骨とう販売「新しい価値発信」

各部屋の大きさは20～60平方㍍。共有の工作室や展示スペース、シャワールームを備え、床には美術学校時代に付いたペンキ跡も残る。既にジュエリーデザインや靴の製造、写真スタジオなどに使われている。

2月にカフェを開店予定の北辺佑智さん（25）は「古い建物に新しい意味を加えた点に魅力を感じた」と入居の理由を明かす。今後、ワークショップを開くなどしてコーヒー豆の生産者の思いを広く伝えていく計画という。

同じく2月から古道具や骨とう品の店を開く井村芳生さん（37）は、美術学校の設備として残されていた版画のプレス機を商品棚に活用しており、「うちの古い商品が生きる。ジャンルにとらわれず良い品を販売したい」と意気込む。

子ども向けに自然体験教室などを開いているNPO法人、地球デザインスクール（宮津市）理事長の水野哲雄さん（68）も作業場として利用しており、「異なる分野の人たちと出会い、新たな取り組みが生まれることが楽しみ」と話す。

フラットエージェンシーは「美術学校の歴史や精神を引き継ぎ、ここから新しい価値を発信していきたい」としている。

（三村智哉）

アトリエや店舗などの拠点として生まれ変わった「ｔｈｅ　ＳＩＴＥ」（京都市左京区田中東春菜町）